

学術団体名：一般社団法人 日本質量分析学会

学術刊行物の名称：Mass Spectrometry

事業期間：平成28年度～平成32年度

公開用概要

1. 取組の概要

- ・国際情報発信強化における取組内容の特徴と目的、意義及び方法

質量分析学は気相イオンの質量を扱う学術分野であり、イオン化、質量分離、検出、そして生命から宇宙までへの応用を対象とする化学、物理、工学、生命科学の複合領域に位置づけられる。その応用技術として質量分析法は今世紀に入って生命科学から環境・地球科学まで広い分野の基幹技術となった。世界で最も長い歴史を誇る日本質量分析学会は、本領域の学術発展とわが国研究者の独創的研究成果に関する国際情報発信支援・強化を目的として2012年にオープンアクセス英文誌ジャーナル **Mass Spectrometry (Tokyo)** を創刊した。外国の諸学会とも協力しつつ認知度向上の宣伝を行うとともに、魅力ある編集システムを構築して、わが国発の一流国際誌としての信頼を獲得する。

- ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

2018年度（中間年度）において、投稿論文数100、インパクトファクター相当値2.5、論文ダウンロード数10,000とすることで、先行する国際誌7誌に追いつき、追い越すことを目標とする。

2. 目標の達成状況

- ・国際情報発信強化における現在までの目標の達成状況

台湾学会特集号の出版などの海外戦略を行い、投稿論文数34（当初目標の34%）、インパクトファクター相当値1.400（同分野の国際誌5番目、当初目標2.5は国際誌3番目）、論文ダウンロード数15,754（当初目標の157%）である。



- ・今後の計画

トピック企画による特集号企画の他、応用と標準測定条件やコメントリなどの記事種類を増やすことで投稿数・掲載本数を増やす。正式にインパクトファクターを取得することで国際的注目度を上げ、海外からの投稿を呼び込む。これらによって、当初設定した目標の達成を目指す。